

## F 経営情報システム

### 【総評】

令和6年度の本試験は、経営情報システム24問（1問は設問が2つで合計25問。昨年25問）のうち、毎回もしくは定期的に出題されるテーマが14問（昨年15問）、時事もしくは数年前に出たテーマが11問（昨年10問）であり、概ね例年とおりの出題構成となりました。

また、5肢択一の問題は、24問（1問は設問が2つで合計25問。昨年25問）であり、ここ数年の傾向どおりとなりました。

### ・当年の難易度

ここ数年時事的なテーマの比率が高くなっており、その傾向が変わらないこと、初見のテーマであったとしても、文章を丁寧に読めば解くことができる問題もいくつかあったことを踏まえると、問題ごとのばらつきはありましたが、全体としては、標準レベルに近い難易度になったと思われます。診断士として、情報技術の詳細を知るといよりも、「情報技術を活用できるようになってほしい」という出題者の意図を感じました。

合格点を確保するには、例年同様に、基本的な知識で解くことが可能な問題を取りこぼさないように確実に解答し、新しい問題については、問題文や選択肢の記述から判断できる問題をいかに得点するかがポイントとなりました。

### ・新傾向や特筆すべき出題内容

（毎回もしくは定期的に出題されるテーマ）

比較の出題頻度が高い第6問（クラウドコンピューティング）、第7問（正規化）、第8問（SQL）、第9問（通信プロトコル）、第11問（クラウドコンピューティング）、第14問（アジャイル開発）、第21問（EVMS）が例年同様出題されました。これらの分野については、得点しておきたいですが、第14問は少し難易度が高い問題でした。

（時事もしくは数年前に出たテーマ）

比較の出題頻度が高い機械学習のテーマが、第23問で例年同様出題されました。正解率などの定義も問題文中にあることから、得点しておきたいです。第24問（生成AI）も、難易度としては易しい時事問題のため、得点しておきたいです。ガイドラインについての問題も、最近の傾向として出題されるようになりました。本年も第10問設問1、設問2で出題されました。

新たな傾向として、第22問で白書の図表を使った問題が出題されていました。中央値、最頻値に関する基礎的な問題でしたので、2ページに渡る表にも落ち着いて対応できたかどうか、分かれ目となりました。

(その他)

第5問（ユーザビリティとアクセシビリティ）、第13問（キャッシュレス決済）、第17問（パスワードレス認証）は細かい論点を問われました。時間内にできるだけ多く解答するためには、優先度を下げるという考え方もできたでしょう。

## **[的中！合格模試]**

毎回もしくは定期的に出題されるテーマのうち、第11問（通信プロトコル）、第19問（EVMS）、第23問（クラウドコンピューティング）、時事的なテーマのうち、第14問（情報化社会）は、合格模試で出題された論点でした。STUDYing受講生においては確実に得点しておきたい問題です。

以上